

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 2年 11月 11日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470202684		
法人名	医療法人ピーアイエー		
事業所名	グループホームつぼい		
所在地	広島市佐伯区坪井三丁目818番地の1		
自己評価作成日	令和2年9月27日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3470202684-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和2年11月10日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

栄養バランスを考慮しながら手作りの食事を毎食提供しています。アットホームな環境と、隣接する母体のナカムラ病院の専門的な知識と手厚い支援により、急を要する医療にも迅速に対応します。ゆったりとした生活の中で、ご利用者さまの思いが叶うように、より親身にきめ細やかな支援を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

長年にわたり地域に根差した事業所として親しまれ、母体が医療法人であることから医療との連携やバックアップ体制の整った事業所である。「我々グループは幸齢社会を創ります」の法人理念を常に意識し、利用者へ尊敬と親愛の心で接し安心安全をモットーに利用者の穏やかな暮らしを育てている。従来の面会が実施しにくい実情の中、事業所内でのレクリエーションを企画充実させスタッフ共々で明るい雰囲気づくりを高めるなど今般の現状に合わせた取り組みを工夫している。小川のせせらぎが聞こえ木々の多い公園が近く、周りの環境が自然に恵まれているので、散歩や日光浴・花見など利用者の気分転換に外へ出る機会を設けている。オンライン面会や窓越し面会で家族との顔の見える安心提供に努め、更に充実したケアサービスに取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	『我々グループは幸齢社会を創ります』の理念と行動指針を定めたハンドブックを法人全体で共有し、朝の申し送りで読み上げ意識の統一を図っている。理念に添ったホームの年間目標を設定し、それに基づいた個人目標を立て半年ごとに評価、見直しを行っている。	法人理念を念頭に、各職員が携帯しているハンドブックに記された行動指針などを毎朝の申し送り時に唱和し意識統一を図っている。ホーム独自の年間目標「気持ちに寄り添い信頼関係を築く」などを定め、個人目標は半年ごとに振り返りを行い検証し実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	ご近所からのひな祭りの招待が十何年と続き、顔なじみの地域の皆さんがボランティアで参加してくださり交流の場となっている。祭りの子供みこしや運営推進会議への参加など、皆さんの協力を得ている。	イベント事は催していないが、事業所の夏祭りには輪投げ・大型カルタゲーム他を楽しみ運動会ではパン食い競争など室内レクリエーションを充実させるよう企画している。地域交流も長年培った関係性を活かし、近所の人から頂いた野菜を食レクに活用するなど今般の実情に合わせたスタイルで紡いでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	グループホーム独自の活動は少ないが、法人全体の協力体制があり、認知症カフェ、コミュニケーション誌を地域へ配布し勉強会等も開催している。相談、見学、実習受け入れなどグループホームで可能なことは柔軟に対応している。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	活動状況や事故等を報告し助言や評価をいただいている。事業所同士の参加も継続している。今年は自粛生活のため意見照会の会議になっているが、情報交換やケア対応の工夫やアイデアを共有することでスタッフのストレス解消につながっている。	現状に合わせた取り組みで、地域包括支援センター職員や近隣のグループホーム職員などと書面で意思疎通を図り、現状把握や意見交換を行っている。お互いの近況報告を行うことでメンタルケアにも繋がり、目指すところの共感や工夫点などサービスの向上に反映させている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議を通して、地域包括支援センターや認知症地域支援推進委員等の皆さんと情報交換している。運営推進会議の報告書を保険課に持参し情報を得ている。	普段から報告や手続きなどで区の担当者と連携している。法人主催の認知症カフェでは「指揮者による音楽脳トレ」を地域の方々と共に楽しむなど介護予防ケアの協力関係も築いている。地域支援ネットワークと連携しているが、現在ボランティアの来訪や実習生の受け入れは無く再開できる日を心待ちにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアは当然のことと全員理解している。職員の日配りと連携で、行動を制限することのないよう取り組んでいる。法人内の『行動制限最小化委員会』に月/1回参加。対応困難事例について実践に向けて協議し全職員に周知し研修を促している。	言葉や態度で利用者の行動を制限しない取り組みに努め、適正化への検討会議を定期的に行い職員間の意識統一を図っている。玄関にセンサーマットを敷いたり鍵を工夫するなどの対策は講じている。現在、身体拘束を要する事例などは無く見守り強化に注力している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	不適切な言動や行動を規制することのないよう申し送りやミーティング等でケアや対応を話し合っている。接遇研修参加。業務を柔軟に見直し、勤務体制に無理のないよう管理者が配慮している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を利用している方もあり、制度を理解できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	料金改定等は文書を送付し、口頭でも説明して同意を得ている。入所時に重度化に伴う説明をしているが、家族が疑問に思われることに対してはいつでも相談を受ける体制がある。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族の面会時に要望や意見を聞き、職員で情報を共有しサービス向上につなげている。家族が直接言いにくい場合は、担当相談員、主治医に相談可能。ご意見箱設置。	希望する家族にはタブレットを用いてリモート面会が出来るように工夫したり、日々の様子を手紙や電話で伝え「つばい便り」に写真やコメントを添え安心感が持てるよう、家族との信頼関係の継続に力を入れ取り組んでいる。いつでも相談できる体制を整え、頂いた意見を運営に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>ミーティングの実施。管理者が日頃から職員の意見を聞き業務の改善や、利用者の状況や実情に沿ったケアにつなげている。</p>	<p>コロナ対策としてスタッフのストレスケアや備品の確認・マニュアルの整備・研修内容案など就業環境の向上に向けて話し合いを重ねている。ミーティングでは日頃からの意見をまとめケア内容のグレードアップに繋げている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>法人の就業規則と職能資格級制度での人事考課あり。資格取得等各自が向上心をもって働ける環境づくりに努めている。有給休暇取得へも積極的に取り組んでいる。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>法人で年間研修計画を立て、習熟年数に応じた研修参加の機会を設けている。研修の要望も聞き、前向きに取り組めるようアドバイスしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>佐伯区グループホームネットワークに参加。グループホームで抱える課題や情報を共有し研修の機会を設けたり、意見交換しながらスキルアップを図っている。お互いの運営推進会議に参加している。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>家族からの情報をもとに、ご本人の気持ちや思いを傾聴し職員が情報共有しながら信頼関係を築けるよう支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>ご家族にホームの日々の生活やリスク等を相談員を交えて丁寧に説明している。ご家族の要望や不安を聞き、お互いが理解し合えるよう努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>法人内の地域連携センター相談員と一緒に対応し、その人にとって今何が必要かを見極め支援につながるようにしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>ご本人のやりたいこと、得意なことが継続できるよう見守り、自信につながるよう支援しながら信頼関係を築けるよう努めている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>ご本人の希望や思いが叶えられるようご家族と情報交換しながら支援している。定期的な外出等も継続できている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>現在、友人の面会等は控えていただいているが、一筆箋の手紙を送るなどして関係が途切れないよう支援している。</p>	<p>コロナ禍においても馴染みの花屋から当職員を励まそうとたくさんの花をプレゼントされて、利用者と共に香りや生け花を楽しむなど心温まる関係性が継続している。ひと文字でも書ける方は職員と共に手紙を出すなど、懐かしい旧知の関係が途切れないよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	気の合う方や相性の悪い方の席を工夫し、気持ち良く過ごしていただけるよう配慮している。お互いの部屋を訪問しあう姿も見かけられる。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他の施設や病院へ移られるときは、日々の生活全般を情報提供している。法人内の移動では、担当相談員がそのまま引継ぎ対応している。ホーム職員も経過や情報を共有しお見舞い等に伺っている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々の利用者が何に興味を持っているか、何に関心があるか、日々の会話や行動を通じてするように努め情報共有している。実現可能なことは家族に協力をお願いし支援している。	何気ない日常の会話やボードを使った筆談などで、それぞれの思いや意向を汲み取り入居者日誌やカルテに記し職員間で共有している。生活歴を紐解き、家族からの情報を加味しつつ利用者が自己実現出来るように寄り添う支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者がどうしてそのような行動をとるのか、どうしてそれを好むのかを知るためにプライバシーに配慮しながら、家族、兄弟と情報共有し本人の気持ちに添えるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	それぞれの過ごし方や気持ちの持ち方を日々の暮らしの流れに沿って細やかに観察し把握に努め、情報共有しチームで支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>日頃の状態や本人の気持ち、家族の要望を聞き3ヶ月毎を基本として見直しを行っている。また、状況により臨機応変に見直しを行っている。</p>	<p>本人・家族の意向に沿い医療関係者・各種専門スタッフの意見を取り入れ現状に即した介護計画を作成している。一人ひとりの楽しみ事や意欲のわく事柄を把握して、それぞれのプランの実行をチェックし日々生き生きと過ごせるように随時プランの見直しを実施している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の記録はカルテや日誌に記入。状態の変化やケア変更は連絡帳に記入し情報共有している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>法人内の機能を活用しながら支援を行っている。薬剤師、歯科衛生士、栄養士、理学療法士、作業療法士、心理士にいつでも相談できる体制がある。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域包括支援センターはもとより、地域の方々に行事などのボランティアをお願いし馴染みの関係ができています。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人や家族の希望する医療機関への受診や母体病院の定期的な受診など、希望に添った対応をしている。夜間の緊急時は、母体病院の医師に往診をお願いしている。</p>	<p>ほとんどの利用者が母体病院の協力医を主治医としている。感染症対策を含めた24時間体制の手厚い医療面のバックアップがあり、急変時・緊急時にも迅速な対応で利用者の健全な生活を守っている。歯科の訪問診療では口腔ケアやスムーズな嚥下の支援に取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>母体病院と連携している。日頃の体調管理や受診の相談、アドバイスや支援をお願いしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>母体病院と連携している。他の医療機関へ入院の場合は管理者や相談員がお見舞いし、家族や担当者と治療経過の確認や情報を交換し退院後の生活支援を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>利用開始時に重度化した場合の対応や方針を説明し同意を得ている。医療依存度が高くなった場合は、適宜主治医を交えて話し合っている。終末期の対応については母体病院の協力を得て支援している。</p>	<p>重度化した場合は本人・家族・医療関係者を交え段階的によく話し合い、納得の得られる方向で支援している。終末期の対応については、法人内医療施設と連携し、その人らしく人生をまっとう出来るように最期まで温かみのあるチームケアで臨んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>救命講習に順次参加している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>法人内で支援体制があり避難訓練を実施している。当法人と五日市観音西地区自主防災会連合会と【災害相互応援協力協定】を結び災害時の協力体制ができています。土砂災害の危険区域のため、年/1～2回の避難訓練を実施し、実際の避難も数回経験している。</p>	<p>法人内での避難訓練や地域の防災訓練にも参加し災害時に備えている。地区防災連合会と「災害相互応援協力協定」を結び、土砂災害などへの対策や減災活動に努めている。積み重ねた訓練が実際の避難にも役立ちスムーズな避難に活かされた例もあり、非常食・飲料水・常備薬・マスクなどの備蓄を完備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	親しみのある会話にも、くだけすぎず相手を不快にしないような言葉かけを心がけプライバシー確保に配慮している。接遇研修参加。	利用者を人生の先輩として敬い、日々の暮らしの中で礼節を保ち尊厳やプライバシーを護る配慮のケアに取り組んでいる。トイレ誘導の際には小声で介助するなど、接遇研修や勉強会を通じてスタッフ間でも話し合い、スキルアップに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	個々の残存能力に配慮しながら、イエス、ノーで答えられる質問を少なくして、問いかけに言葉でかえせるように働きかけている。難聴の方にはボードを使い筆談で対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者全員で開始、終了するのではなく、その人のペースを見守りさりげなく対応するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節に合った衣類を準備し本人の希望にあわせて洋服を選んでもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	日々の食事提供に力をいれている。季節や好み、特別な日の献立を職員が交代で考え食事を楽しんでいただくことを大切に考えて支援している。	管理栄養士監修のもと栄養バランスのとれた手作りの食事提供である。行事食の彩り豊かな献立をスタッフ間でアイデアを出し合い工夫している。手作りケーキではスポンジを焼き、それぞれ好きなようにデコレーションして楽しんだ例など、自粛期間の食レクを考察し充実を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>一人一人の必要に応じて量、形状を配慮しながら提供している。特に水分摂取には気を付けている。糖尿病の方の食事は、法人の栄養士に相談しながら提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>定期的に歯科受診し、歯科衛生士の指導を受けながら歯磨きの介助や義歯清掃など個々に合わせた支援をしている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>それぞれの排泄パターンを把握し、できるだけ自分の意思でトイレに向かえるようにしている。必要時は確認させていただき不潔にならないよう配慮している。</p>	<p>各々の排泄パターンやタイミングを見計らいトイレ誘導している。適切なパッド対応や軽い体操・歩行などで筋力保持に努め自立に向けた支援に取り組んでいる。水分補給や日中の活動量を把握して気持ちのよい排泄に繋げる工夫を重ねている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>体操などの体を動かす機会を設けたり、食事メニューを工夫して水分摂取できるよう配慮している。主治医と相談しながら便秘薬も使用している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>職員と1対1で自分のペースで入浴できるよう支援している。好きな話題で会話しながら楽しい入浴時間を過ごすことができるよう支援している。</p>	<p>本人の体調や気分に合わせて柔軟な対応で、職員との会話を交えながら生活リズムを整える場としても大切な時間となっている。シャワーチェアや浴槽の手摺りなど福祉用具の活用で安全面に配慮し、時にはゆず湯ほか季節の香りを楽しみリラックス出来る支援に取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>個々の体調や体力を把握し、状況に応じて休息の声かけをしたり空調の調節をしながら安眠できるよう支援している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>服薬中の薬の説明書をいつでも見られるよう準備している。服薬による状態変化を記録し申し送っている。疑問や不安を、いつでも主治医、薬剤師に相談することができる。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>家事仕事は難しくなっているが、それぞれの得意な折り紙や、塗り絵、計算問題などが継続できるよう支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>感染症の拡大で大好きな外出ができなくなっているが、近所の公園などへお花見に行ったりしている。</p>	<p>近隣の公園への散歩やドライブがてら近所の花見スポットの桜を観に行くなど、日光浴や気分転換の機会を設けている。外出が可能な時期が来ればと将来の外出・外食を視野に入れ「夢プラン」として利用者と共に語り合い楽しんでいる。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>2～3名の方が現金を所持している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	携帯電話使用の介助をしている。		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	リビングからベランダへ自由に入出りができ、ゆったりと過ごしていただけるよう配慮している。季節を感じていただける物（七夕、ひな祭り等）を一緒に準備し飾っている。	落ち着いた雰囲気のあるリビングや回廊式のベランダからは瀬戸内の島々を眺めて気分転換が出来る造りとなっている。空調設備や窓の開閉で換気し室内の清浄化に努め、お雛さまの飾り付けや七夕飾りを利用者と共に楽しみ季節感のある共用スペースづくりに取り組んでいる。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	自室やリビングで皆さん思い思いに過ごしている。食事づくりの臭いや音がゆっくりしたBGMになっている。		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	家族協力のもと、馴染みの物や写真、趣味の物を持ち込み生活されています。	各居室には洗面台が設置され身支度や手洗いなどが出来るように設えている。チェストなど馴染みの調度品を持ち込み、家族写真・思い出や愛着のある品々が飾られ、その人らしく落ち着いて過ごせるように配慮がなされている。	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	一人一人の機能を把握し、動線が危なくならないよう配慮している。床は柔らかい素材で転倒の衝撃が和らぐようにできている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームつばい

作成日 令和2年 12月21日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		コロナ禍で楽しみの外出支援などができない。	日常生活におけるレクリエーション活動に、気分転換できるような季節の行事を取り入れる。	外出制限のある日々の生活に、季節を感じながら楽しめる行事やレクリエーションを企画する。	1年
2		面会制限のため、日常の様子を家族伝える機会が減少している。	家族に定期的に日常の様子を報告する。	写真や手紙に添えて、可能な利用者に一筆箋などで手紙を書いていただき送付する。	6か月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。